

日本キリスト教団出版局

局長 秋山 徹 殿

み栄えのための日頃のご尽力に心からなる感謝と敬意を表してやみません。主が豊かに報いて下さいますように。

さて、この度出版された富田正樹著「信じる気持ち」を手に入りました。この内容は甚だしい逸脱にみちています。「まえがき」に「これでもできるかぎり主観に走らず、あまり偏りのないように書く努力はしたつもりです」とありますが、結果は主観に走り、偏りだらけです。

しかも、イエス・キリストの神性 (p.34) を危うくし、救い主なるイエス・キリストを軽んじ (p.36)、主の復活を余りにも水平レベルで片付けてしまっています (p.38)。

その他、洗礼 (p.68) や聖餐 (p.70) という聖礼典についても深みがないというよりも相対化が見られます。これではキリスト教と言えないのではないかという危惧を越えてしまっています。

昨日、教団の役員会で三役と五人の幹事でこの本について検証しましたが、これは回収、出版停止、廃刊に値するものだとの意見で一致を見ました。(詳細 各論は理事たる小林 眞副議長から申し上げさせていただきます) こんなひどい内容が日本キリスト教団出版局から出されるというのでは教団の自殺行為です。「はじめてのキリスト教」との副題が付けられていますが、はじめから躓かせる入門書などやりきれません。

責任ある説明、今後の対策等についてお聞かせ下さい。

主の導きを祈りつつ

2007年2月1日

日本基督教団

総会議長 山北 宣久

